

貧弱となるが、殆ど歐米の盛大な空運振りを羨む紹介ばかりで本邦内部では民間航空の振興や空港の増設を叫ぶ聲のみ盛であるが實は一向に上らない。尙全体として技術問題及法律問題は殆ど之を省いたし、分類の点から言へば都市交通は寧ろ一つに纏めて獨立させるを可とすべく、各論中でも問題の種類による排列を企てたが、一方一雜誌毎に順を追つて書いたものを分解出来なかつた分が相當あり、不統一を免れなかつた。是等は次年度に改善を期したい。

(一九三五・二・八 細野)

## 倉庫

\*山本五郎 港灣經濟論 (昭九・一、丸善大阪支店發賣、菊判一四四頁、附録一七九頁、港灣經濟學) 著者の大阪商大に於ける講義を基礎とせられたものである。先づ緒論に於て港灣經濟學 (port economics) なる知識体系が經濟學の一部門として有する特質を指摘し、従前に於て海運論の一部としての港灣論、鐵道論の一部に於ける臨港鐵道と港灣との關係の如きとは趣を異にし、之を一の學問として

樹立する事は著者を以て最初の企となすことを掲記される。

次で港灣の意義、港灣の歴史、港灣の設備施設の名稱 *Cosary* を經て本論に這入り港灣經濟の根幹が、港灣に於ける經濟活動が其設備施設を其活動の基本となし、設備施設の存在と其經營管理運用とに存する事を抉出する。

以下本文に於て論ぜらるゝ項目は港灣の種類及各種港灣の特徴、港灣の結構と機構、港灣の設備及施設、港灣の機能、港灣に於ける作業、港灣諸業、港灣に於ける諸課料、港灣の勞務、仲仕、秤夫の制度其賃銀制、港灣の統計、港灣の管理財政經營、港灣の行政並に諸制度、港灣に關する法令、規則、港灣の修築、港灣の分布、日本の港灣、世界諸國の港灣、港灣政策、特別研究項目がある。

次に附録。附録といつても本書の過半を占めてゐるが著者の名著「水陸聯絡機關としての倉庫及上屋」より抄録或は雜誌港灣に寄稿されたものを轉載されたものであつて水陸聯絡機關に就て運輸と倉庫と上屋、終端港と仲繼港、臨港鐵道、港灣に對する

河川、運河、道路、自動車路、電車路に就て、港灣都市に於ける荷役設備、臨港地域の特定の上屋及倉庫に於ける本船繫留水陸聯絡に付て考察すべき要點、港灣の修築計畫並に其工事施行に關する一つの念願、港灣の荷役改善に付て考察すべき要點、港灣能率の増進に就て、港灣設備經營業の獨占と競争並に其對策、自由港論に就ての諸港を收む。

全体を通じて著者の理論及び實際に於ける該博なる造詣を知る事が出来る、港灣經濟論の名著であらう。更に体系が一層整然であつたなら、一層讀了が容易であらう。

加藤吉次郎 米國倉庫界に於ける産業復興運動 (港灣、一二卷六號、昭九・一、頁一一二) 全國産業復興法による復興運動に参加すべく米國倉庫業中、雜貨倉庫業は本年二月十日から公正競争コードを準據法として實施する事となつた。雜貨倉庫界の公正競争コードは十四章より成り、其目的、用語の意義、労働時間、賃銀、一般労働規定、實施機關、參加證、倉庫業務の標準化、倉庫料率表、通知並に報告の義務、不正行為、本コードの變更、獨占、施行期日 *Convention*

ance and necessity clause の夫々に就て解説。

前馬治一 昭和九年上半年に於ける我が國倉庫關係文獻 (商業經濟論叢、一二卷別冊、昭九・一〇、頁二一—三六)

前馬治一 昭和八年に於ける我が國倉庫學界 (商業經濟論叢、一二卷 冊、昭九・二、頁一六五—一九六)

向井梅次 文獻解題・倉庫 (研究論集、六卷三號、昭九・三、頁九五—九六)

三橋信三 倉庫業發達史 (經濟知識、昭九・六月號、頁二〇三—二一九) 倉庫業の現状、倉庫業沿革史、倉庫業の將來の三項に分つて叙述。倉庫業の現状に就ては都市倉庫と港灣倉庫の二分野より概観し、統計を以て補説し、倉庫沿革史に於ては貯藏機能中心時代、港灣倉庫時代、都市倉庫時代に分説して倉庫業の統制法規を要望するに至れる過程を叙する。

松波港三郎 スヴェーデン倉庫營業法 (法學論叢、三〇卷四號、昭九・四、頁九七—一〇四) 一九三一年の Gesetz über Lagerhäuser und Lagerstätten の紹介である。倉庫の設立には許可主義を採用。且證券の發行については

單券、複券制併用主義である。

前馬治一 冷蔵倉庫について (商業經濟論叢、一二卷下冊、昭九・二、頁二一—二六四)

倉庫殊に冷蔵倉庫の職能を叙し、冷蔵倉庫の意義を述ぶるにあつては冷蔵の本質を吟味し、次で内外の冷蔵倉庫の發達を詳述して食料品貯藏方法としての冷蔵の長短を比較し、魚類、肉類、牛乳、バター及びチーズ、鶏卵、果實、蔬菜、衣類、蠶種、飲料水及び酒類、花卉類、瓢類の冷蔵保管を述べて、冷蔵倉庫政策としての意義及本邦の特質を叙述する。

第五回全國農業倉庫協議會 (產業組合三九號、昭九・一、頁七九—九八) 中央會提出問題には、現時の社會狀勢に臨み農業倉庫の探るべき方策、出席者提出問題には、吾人は米穀統制法の實施に伴ひ以後米價を公定最低價格以上相當程度に維持することに力めざるべからず之が實行方法如何、政府に於て米穀の買上又は賣渡を爲す場合は各府縣に於て受渡しせらるゝ様要望の件、穀物検査國營促進の件、米小麥の共同計算に依る平均賣制を採ること、米穀の平均販賣に關し適切なる方法を承り度し、全國米穀販賣

購買組合聯合會の事業促進の爲相當助成方其の筋に要望の件、非常時農村匠救の爲徹底的に農産物の貯藏並に販賣統制施設を急施方要望の件あり、米穀の平均販賣に關し適切なる方法を承り度し、追加問題には、農業倉庫建設補助金増額を政府に請願の件、農業倉庫保管物品の範圍を擴張せらるる樣法の改正方要望の件等あり。

松本友助 農業倉庫法の改正に就て (產業組合三四三號、昭九・五、頁六三—六六) 昭和九年三月十二日公布せられた改正の要点は、第一、農業倉庫の保管物品の範圍を擴張して木炭の生産者の爲に木炭を保管の目的物として認めたること、第二、聯合農業倉庫に於て農業倉庫よりの再保管と並んで販賣組合及販賣組合聯合會の賣却する穀物、鹽、木炭等を保管し得ることとなしたること。第三、聯合農業倉庫は本來の保管に支障なき場合に於ては、命令を以て指定する營利を目的とせざる法人の賣却又は賣却の斡旋を爲す物品を保管し得ることとなしたること。

齋藤英香 庄内倉庫を視察して (運輸月報、昭九・四、頁三〇—三三) 山形縣東西田川及鮎

海の三郡所謂庄内の倉庫視察録。

## 海上保険・共同 海損

### 一、海上保険

\* 酒井正三郎 保險經營學 — 特に海上保険に關して — (昭九・三、森山書店、菊判二〇一頁、附註あり)  
所謂商業學が從來まゝその獨立性すらも疑はれ來つた現狀下に、その特殊部門たる海上保險論を體系化しその獨自の立場を明かにせんとする目的達成の爲に所謂經營學の方法を以てせる力作。全体を三編に分ち第一編總論に於て先づ海上保險學の論理的構造並にその學問的性質を所謂經營學の夫れの考究によりて明かにし次で保險の本質及び分類に就ての探究によりて海上保險の概念を明かにする。之によれば經營學に關しては廣義の技術論となす立場をとり海上保險の本質に對しては「海上の危険に脅かされる海上企業關係者の生活安定を目的とする間接的内部的金融の仕組」なりと定義する。本編は更に海上保險の發生時期・場所・

起原てふ三個の問題に區別してその沿革を探究することによりて結ぶ。第二編海上保險組織論に於ては先づ經營學の對象としての企業經營體の一般論に始まり、その分析をなして以て保險組織論の体系の方向を定め、以下それを追ふて保險に於ける資本組織と經營組織の研究及びそれら企業體の批判と統制の問題の究明を進める。第三編即ち海上保險の取引を研究對象とする海上保險契約の形式的要件並に實質的要件につき概説せし後、更に後者を各別に詳説する。曰く被保險利益論、海上危険論、海損填補論。但しこの最後のものは著者の所謂第三要素に従へば保險期間中に起れる海損に付ての保險者の責任を考ふるとき同時に海損を取扱ふを以て合目的なりとし且その内容的重要性に顧みかくは命名せられたるもの。尙本書の價值をより一層高めるものは、船舶及び積荷の普通保險約款、用語索引と共に附録中に收められたる各章別の文獻解説であらう。(尙本書の新刊紹介が經營學者としての池内信行氏により關西大學商業經濟時報、第一號、昭九・六、頁八三・八四に、

一一一

保險學者としての末高信氏により早稻田商學一〇卷一號、昭九・四、頁三〇〇—三〇二に、及び卯月逸士の筆名により保險評論二七卷三號、頁一〇八一—一〇九にある)  
酒井正三郎 經營學としての「海上保險學」(保險評論、二七卷一號、昭九・二、頁五八—六二) 同氏著保險經營學に於てその第一編總論中第一章をなす論稿であつて所論經營學の論理的構造並に學問的性質の究明によつてその特殊部門たる海上保險經營學の夫れを明かにするを目的とせるもの。(前掲岡氏著保險經營學解題參照)

勝呂弘譯、ジ・ヴェキング 獨逸海上保險法論 (保險評論、二七卷二號、昭九・二、頁三三—三八、二七卷三號、昭九・四、頁二四—二八、二七卷四號、昭九・五、頁三二—二七、二七卷五號、昭九・七、頁四一—四九、二七卷六號、昭九・八、頁三九—四六) 昭和八年度より繼續の翻譯、八三六條乃至八五三條即ち第四節危險の範圍譯了。(昭和八年度文獻解題二二七頁參照)  
勝呂弘 海上保險成立期に關する諸學說の吟味 (商業と經濟、第一五年第一冊、昭九・九、頁五〇—九三) 獨逸のアドルフ・シャウベの學說を根幹として海上保險成立期に關する諸